

海老名市立杉本小学校 学校運営協議会 議事録
(令和8年度 第2回)

- 1 日時 令和8年9月18日(金) 9:00～11:30
- 2 場所 海老名市立杉本小学校 校長室
- 3 出席委員 瀧澤美穂子委員長、河村治副委員長、藤吉ひとみ委員、坂本真一委員、高橋裕之委員、奥泉憲校長、鈴木幹央総括教諭、前田潤子教頭

4 会議の内容

(1) 学校長挨拶

奥泉校長:修学旅行に6年生全員で元気に行ってきた。運動会練習がこれから始まる。

(2) 委員長挨拶 瀧澤委員長

瀧澤委員長:AI が採用面接するというニュースを見た。仕事でも AI は便利なものがあるが、このように顔を合わせた会議、顔を合わせる時間を大切にしていきたい。

(3) 協議「学校を拠点として、地域・家庭・学校がどのような連携をとっていくことができるか」

鈴木総括教諭:学力学習状況調査の質問紙結果をもとに本校の課題について説明。

「自分によいところがある」、「ICT の活用」の項目は平均以上だが、「将来の夢や希望」、「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつける」の項目は平均以下。

河村委員:子どものころ、学習や生活に生かそうと思って学んだことはない。「この勉強何の役に立つの?」とは思った。夢、目標については、昔はプロ野球選手とか…。昨年の上位にユーチューバーがあったが。

高橋委員:朝のラジオで、夢についてのとらえ方についてあった。欧米では夢は叶えるもの、日本では叶わないものとのとらえ。夢はつらいもの?

奥泉校長:大人の様子が児童のモデルになる。先生がいきいきと仕事をしていると児童もいきいきしているイメージがある。

高橋委員:身近な大人は先生。最近の若手職員は会社で役職指向よりも趣味指向のようだ。

河村委員:あこがれ、こういう人になりたいな像があるといいのか。

鈴木総括教諭:本校の児童の自己肯定感が高く、「よいところを先生が認めてくれる」の項目も平均以上の結果であった。

瀧澤委員長:大人を見て、ああなりたくない、と思ったりすることもあるのかな?

藤吉委員:「〇〇高校へ行って●●したい」がない。とりあえず偏差値で決める。

河村委員:〇〇大学であっても同じだろう。恥ずかしくて夢について言えない子も

いるのかな。

鈴木総括教諭：杉本小の児童は、選択肢で「はい」「いいえ」が少なく、「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」が多い。生活で困り感を感じることが少ないのかもしれない。

高橋委員：杉本学区はかしわ台駅付近に飲食店が少なく、児童と職業が遠いのかもしれない。また、私たちが思っているほど夢がないわけではなく、接点がないだけという可能性もある。

藤吉委員：夢のとらえ方の問題？

高橋委員：適度な不自由さが人を磨くエネルギーなのではないか。駅が遠いとか。

瀧澤委員長：電車通学と自転車通学では、社会性は電車通学の方が高くなるそうである。身近で体験する量に差がある。

奥泉校長：本校の児童には、激しく人とぶつかりあうイメージがない。それはそれとして、たくましく友達と関わる力はつけてほしい。

藤吉委員：子どもたち自身でぶつかり合ったときに解決する姿が見られるといい。

高橋委員：縦割り遠足、高学年児童による読み聞かせ等、距離感や接し方をそういうところで学ぶのかな。

坂本委員：なりたい職業の上位に公務員が位置する。堅実的なのかも知れない。

瀧澤委員長：堅実的に考えていることが夢がないように受け取られるのも悲しいですね。

高橋委員：夢について「考え中」という選択肢があるといいのかな。貨物列車の駅に荷物を取りに行っていた時代があった。今は、ネットで注文すると次の日に荷物が届く時代。悩み、迷いが減っているように感じるので、考える時間があってもいい。

瀧澤委員長：応援団のえびなっ子スクールであたらしいものを取り入れて…。

河村委員：夢につながるイベントを…。

鈴木総括教諭：ふれあい広場で柏中の吹奏楽演奏をきいて、夢までいかななくても、目標が見えた児童がいたようだ。

坂本委員：今年度、杉本小より20名が柏中吹奏楽に入部。つながっているのかな。

河村委員：このようなものでも夢や目標と言えるんだ、と意識を変えてあげるとよいのではないか。応援団で児童にどんなことをしたいかアンケートするのもいいですね。

高橋委員：木と釘をハンマーでたたくようなものづくり、大きな音で楽器を吹く等体感、手ごたえのあるものがあるといいように感じる。大人が「どうするの？」と答えを子どもに求めすぎていることもあるかも知れない。みのり幼稚園での絵画鑑賞では、児童の描いた絵は一人の人の作品として静かに鑑賞する大人の態度を求められる。

河村委員：大人が面倒見過ぎでリスク回避、リスク管理にまわっている。

瀧澤委員長：リスクを親が取り除き、リスクのある子と付き合わないよう親が子どもにいう場合もあるようだ。

(4) 6 年代表児童 7 名とトークタイム「海老名の魅力はなあに？こんな海老名になったら」

児童 A：僕は海老名に 2 年間住んでいます。みなさんは？

高橋委員：6 3 年

河村委員：もともとは横浜市。子どものころは杉本小で、PTA 役員をやり、ずっと杉本地区にいる。

瀧澤委員長：低学年年で柏小から杉本小へ引っ越してきた。

藤吉委員：海老名に 6 7 年在住。

坂本委員：海老名に 1 5 年。

児童 A：そんなに長くいるとは！

藤吉委員：そのころは、まだ、海老名町だった。

児童 B：わたしたちはよくゲームで遊ぶ。皆さんの子どもの時は？

藤吉委員：探検していた。きびと神社の貴日土神社の防空壕で業間休みに遊んでよかった。

河村委員：竹藪に基地をつくっていた。

瀧澤委員長：近所の公園でブランコ乗ったりして適当に集合していた。家ではトランプ、ボードゲーム。ゲームボーイもあったが、ゲームじゃなくて…。

高橋委員：亀島にわき水があり、パチャパチャやると縄文土器が取れた。かしわ台の坂を下ると、卵がとれたので、恐竜のたまご？とわくわくした。結局、野生のにわとりの卵だった。

藤吉委員：ザリガニとかいるの？

児童 A：散歩していたら、ザリガニにあう。

児童 C：みなさんが海老名市に住み続ける理由は何ですか。

高橋委員：家を購入したから…。

河村委員：大人の事情ですね。でも、ここは、少し離れたら厚木市に自然が多い。運動公園もある。

瀧澤委員長：この周辺は飲食店は少ないが、歩ける範囲にスーパーもドラッグストアもあり便利なところ。

坂本委員：ここは、ほどよく都会。田舎と都会のバランスがいい。

藤吉委員：海老名市南部にいちごロード、ハウス、畑。梨やぶどうもとれる。ららぽーとのような商業施設、海老名駅は 3 線通り、出かけるのにも便利。横浜、箱根へもさっと行ける。生まれたときは東名高速はなかった。

高橋委員：海老名市が嫌だという理由が見当たらない。

児童 D：昔からある変わってほしくない文化は？

高橋委員：自然が近くにあるのがいい。葉梨整形外科の近くのミツマタの木の近くでクワガタがとれた。田んぼもある。学校の前に田んぼがあるのは恵まれているよ。

鈴木総括教諭：他校の小学校は、バケツで稲を育てているんだよ。

藤吉委員：おはやしがある地域もある。はやし連…。

児童E：昔からいいところがあったと思うけど、それ以上にこうなったらいいな、はありますか。

河村委員：みんなが夢をもてるとか。

奥泉校長：大人になって海老名から出ることもあるだろう。ああ、海老名故郷だな、杉本懐かしいな、そんな町になるといいな。

瀧澤委員長：仕事する町よりも、自分自身の生活がいい町。年を重ねても居心地のいい町。

河村委員：悪い人がいないとか、犯罪がないとか。

坂本委員：これを維持してほしい。自然とのバランス。

藤吉委員：国分寺跡は自慢できる史跡です。

児童F：海老名市のおすすめはありますか。

藤吉委員：南部のいちごとか。

瀧澤委員長：海老名のいちごは、おいしくて、自慢できるよ。

河村委員：大山が見えると得した気がする。小学校から昔、大山が見えた。富士山は少し見える。

高橋委員：みんなもそういう場所を見つけるといいかもね。得した感があるよ。

藤吉委員：地域のしょうがい者施設との交流が何年も前からとん挫したまま。杉本地区ならではの交流もしてほしいな。

児童G：海老名のもっとこうなってほしいはありますか。

奥泉校長：今、とってもいいんだよ。開発のバランスもいい。もっと不便だったら思いつくのかな。

高橋委員：子どものころ、目久尻川は白く濁っていた。下水処理によりきれいになった。

瀧澤委員長：桜の名所だよ、目久尻川は。

河村委員：こうやって6年生のみなさんと話せたり、道で声掛けあえたりする関係があるといい。

(5) トークタイムを終えて（児童退出後）

高橋委員：こういう話を家庭でもするのかな。

奥泉校長：このように大人とミーティングする機会を子どもにもたせたい。

藤吉委員：トークタイムよかった。大人になっても、いい町だな、に目を向けていただけたら。たくましく生きていってほしい。こうやって一緒に話すことに意義がある。

(6) 事務連絡

※次回運は11月19日（木）9：30～に日程変更。協議会后、10：30～教育長とのインクルーシブ対話を予定。

(7) おわりの言葉